日本鐵鋼協會記事

理事會 11月3日(水曜日)午後4時30分開會、出席者、俵國一君、河村驍君、種子田右八郎君、香村小錄君の諸氏にして協議事項 (1)八幡市に於て開催の本會第二回講演大會諸準備に關する件 (2)研究部會開催に關する件 (3)海事協會より技術委員任期滿期に付き後任推薦依賴に關する件。

海事協會技術委員日本鐵鋼協會推薦者次の如し。

今泉嘉一郎君　河村驍君　俵國一君

(4) 入退會承認の件、(5) 其他會務に關する諸件等にして午後8時閉會せり。

編輯委員會 11月3日(水曜日)午後5時開會、出席者、川上義弘君、田中清治君、山本貞次郎君、室井嘉治馬君、三島德七君、協議事項、鐵と鋼第12年11月號掲載原稿選定の件、其他編輯上に關する諸件にして午後8時閉會す。

日本鐵鋼協會第二回講演大會 11月21日(日曜日)午前9時八幡市八幡製鐵所職工養成所講堂に於て開會、11月22日(月曜日)八幡製鐵所見學、河內山貯水池見學、午後6時より八幡高等女學校講堂に於て八幡市役所日本鐵鋼協會聯合通俗講演會開會、11月23日(火曜日、祭日)午前8時半より八幡製鐵所職工養成所に於て講演會開會、午後6時半より門司市門司倶樂部に於て晩餐會開會、11月24日(水曜日)、11月25日(木曜日)兩日共附近工場見學及筑豐炭田見學し開會5日間豫定通り盛會裡に了會せり尙次號に本大會狀況報告を掲載す。

入退會者承認 入會者次の如し。

居所	勤務先、職業、稱號	紹介者	會員別	氏名
東京市外池袋大原1466番地	鐵工業	坪內義之 河添義雄	正	稻葉久美君
福岡縣若松市中丸町97	東海鋼業株式會社	黑田泰造 村松橋太郎	正	松井武美君
東京市外代々木山谷457	鐵道省官房研究所技師理學士	黑田泰造 兒玉晋匡	正	鈴木益廣君
八幡市高見町七丁目官舍	八幡製鐵所技師理學士	野田鶴雄 黑田泰造	正	海野三朗君
熊本市新屋敷町390	熊本高等工業學校教授工學士	野田鶴雄 黑田泰造	正	大森偉一郎君
戸畑市1666番地	明治鑛業株式會社常務取締役工學士	野田鶴雄 黑田泰造	正	石渡信太郎君
八幡市八幡製鐵所第一製鋼工場見習生	中華民國浙江省派留實練習生	村松橋太郎	准	王榮林君
八幡市高見町五丁目	八幡製鐵所技師	野田鶴雄	准	加藤孝治君
同所	東北帝國大學工學部金屬工學科工學士	村上武次郎	准	武田脩三君
名古屋市南區瑞穗町城ノ內古城館方	株式會社大同電氣製鋼所熱田工場	小林子之輔	准	大垣梅雄君

退會者次の如し。正會員　齋藤省三、吉田弟彥、林俊香、鳥居武、井福武夫、岡田權四郎。

會員死亡者 正會員 飯島懿男君（大正 15 年 11 月 2 日）准會員 小川榮吉君（大正 15 年 11 月 9 日）同河越利夫君（大正 15 年 11 月 30 日）以上三氏の逝去せられたるは誠に哀悼の至りなり茲に謹で弔意を表す。

圖書寄贈交換 朝鮮鑛業會會報 46 ○海防義會研究報告 24 ○滿洲技術協會誌 3の15○地學雜誌 83の451 ○日本標準規格 14—24 ○金屬の研究 3の9 ○工業ト社會 28の7 ○大日本窯業協會雜誌 34の405 ○東京帝國大學工學部紀要 16の11 ○鞍山鐵鋼會雜誌 20 ○日本化學會誌 47の9 ○通商上の障碍と認むべき事項書 ○名古屋工業會會報 42 ○理化學研究所彙報 5の10 ○日本工學輯報抄錄 13 年4卷 ○工業 3 ○工政 83 ○京都帝國大學工學部紀要 4の3 4の4 ○造船協會雜纂 54 ○石炭時報 3の7 ○建築雜誌 40の486 ○Eengineering 14の10 ○工業雜誌 62の790 ○日本鑛業會誌 42の497 ○機械學會誌 29の113 ○工業評論 12の9 ○朝鮮鑛業會誌 9の3 ○大阪能率研究會誌 1の7 ○工業化學雜誌 29の10 ○駿工 2の10 ○表彰發明の解說 15 年 9 月版 ○製鐵所參考資料 24 製鐵所研究所報告 VoL、VI. No. I ○日本工業要錄 2の8 ○特許公報 968—980 ○地學雜誌 38の452 ○電氣製鋼 2の10 ○法學博士水野錬太郎氏の歐米視察談 ○土木學會誌 12の4 ○工業之大日本 23の10 ○電氣學會雜誌 459 ○電氣評論 14の10 ○經濟資料 12の10（加奈陀太平洋鐵道の沿革、其一）○燃料協會誌 49 ○機械學會誌 29の114 ○大日本窯業協會雜誌 34の406

佛國製鐵業現況

（10 月 14 日附在佛、石井大使報告）

佛國製鐵業は逐年隆盛となりつゝありて、本年8月の其產出額鑄鐵 813,503 噸、鋼鐵 704,447 噸にして、鑄鐵の產出高としては未曾有の產出高を示し、鋼鐵の產出月高としては本年3月及7月の產出高のみが前記8月分を超過せる有樣なり。以下統計表に依り本年上半期成績を、昨年度の夫に比較して其發達の程度を示さん。

	1926 年度上半期	1925 年度上半期に對する其增加率		1,926 年度上半期	1925 年度上半期に對する其增加率
鑄鐵產出高	4,593,348噸	12·2%	鐵鑛石輸出高	5,191,151噸	1·0%
鋼鐵同	4,097,680噸	14·4%	熔鑛爐鐵鑛石消費高	12,434,719噸	11·4%
鐵鑛石掘出高	18,834,357噸	9·2%			
鐵鑛石輸入高	654,020噸	21·9%	鑄鐵輸出高	334,075噸	0·45%

右の外鐵半製品產出の增加は頗る顯著にして、昨年度の 927,014 噸より 1,041,934 噸に達したるが、發達の度の最大なるは完製品に屬するもの、殊に鐵板、レール、チューブ等にして、鐵板の輸出の如きは倍加せり、反之鐵及鋼鐵屑の輸出は本年初頭に輸出量を制限せる爲、其7分の6を減じたり。尙前記諸統計を 1,913 年度に於て、同一地域內に於て產出せられたる鐵產出高に比較するに、鑄鐵は略同一鋼鐵は 15 %の增加を見たり。

鑄鐵は其產出增加は殆ど全部熔鑛爐產出に係るものにして、1,924 年以來の電氣熔鑛爐衰退の形勢は、本年度に入りて一轉して稍ゝ活氣を呈するに至り、昨年度上半期に比し 3,351 噸の增加を示せり。

鋼鐵に付ては Martin 鋼が總產出額の 29·4 %にして、昨年上半期の 28·4 %に比し稍ゝ增加（卽ち 91,400 噸の增加なり）せるに反し，Thomas 鋼は 69·2 %より 68·6%に減少せるも、大體に於て製鐵技術に變更を見ざりし地方は Thomas 鋼 Martin 鋼何れも同程度の產出增加なり。熔鑛爐に依る鋼鐵竝電氣に依る鋼鐵に付ても、Thomas, Martin と同樣の關係あるが、唯電氣に依る鋼鐵は南 東佛蘭西に於て稍ゝ增加し、反之 Bessemer 鋼は一般殊に北佛、南西佛に於て生產の減少を見たり。最後に佛國製鐵業の現況を地方的に觀察するに、昨年度上半期に比し東部佛蘭西 230,000 噸、ロレーヌ 110,000 噸、北部佛蘭西 115,000 噸、中部佛蘭西 33,000 噸、西部佛蘭西 32,000 噸の產出增加を示し、南部佛蘭西のみは變更なし。卽ち發展の最著しきは北佛にして、昨年度に比し 25% の增加なり。東佛の產出額は佛蘭西全產出額の 71·15 %にして、昨年上半期の 71·9% に比し輕微なる減少を見たるが、之昨年度の 12·4 %に比し本年度は 13·7% に增加せる北佛製鐵業發達の結果なり。此事情竝北佛の Martin の勢力伸張が本年上半期の特色たるべし。